

福岡市 総務企画局 企画調整部 企画課長

箭野 愛子

Aiko Yano

平成20年 4月 総務省採用
同 消防庁総務課
平成20年 8月 岐阜県総合企画部市町村課
平成21年 7月 総務省自治行政局地域自立応援課
コミュニティ・交流推進室
平成22年 4月 同 人材活性化・連携交流室
平成23年 4月 同 自治税務局市町村税課
平成25年 4月 内閣府規制改革推進室
平成26年 4月 現職



一人二役の役人生活

「私がこの街のためにできることなんてあるんだろうか。」

福岡市は、若者で活気に溢れ、税収も伸びており、今後20年は人口が増え続けると言われています。少子高齢化が進み、若者が職を求めて都会へ出ていく「地方」のイメージとはかけ離れた福岡市の真ん中で、赴任初日にそんな思いを抱きました。

国家戦略特区担当として

福岡市は、平成26年3月に国家戦略特区に選定され、私はその翌月、特区担当課長として着任しました。

特区のテーマは「創業促進と雇用創出」。特区を活用して創業を促進し、就職口を増やすことが、市のミッションです。若者が多く、経済活動も活発な福岡市ですが、実は大学生の半数近くが、就職時に東京圏に流出しています。私が当初に抱いた印象とは異なり、「ふるさと」を離れざるを得ないのは、福岡市も例外ではなかったのです。

国家戦略特区は、特区に限定して制度改革を行う制度です。担当課長として、各部局を回ってそのメリットを説明し、他方で現場の意見を反映させるために国と交渉する中で、国の制度がどう運用され、どの部分で不都合が生じているか少しづつ見えてきました。

霞が関で他省庁と仕事をしていると、市町村の仕事を軽く考え、「制度がうまく機能しないのは市町村が仕事をしないからだ」と一蹴してしまう人に出会うこ

とがあります。一方で、「霞が関は、現場を知らずに不合理な制度を作っている」との批判もあります。しかし、両方の立場を経験すると、そうした二元論がいかには非建設的であるかわかります。

一貫性と汎用性を持った制度を作る必要がある国と、住民と直接対峙し、当初は想定されていなかった事態に対処する必要がある自治体、それぞれの責任があるからこそ、意見が噛み合わないことが出てきます。それを丁寧に解きほぐしながら、関係者が納得でき、かつ筋の通った制度を考えることが、両方の立場を知る総務省職員の責任であり、やりがいであると考えています。

息の長い仕事

国家戦略特区は、すぐに効果が見えるものではありません。特区指定を契機に、創業の機運が盛り上がっていますが、新しく生まれた企業が育ち、雇用の受け皿になるまでには、しばらくかかるでしょう。

効果がすぐに表れないと、時に方向性を見失いそうになることもあります。が、「あの時特区に指定されて、福岡は変わったよね」と10年後、20年後に思ってもらえる仕事をするのが、私にできることだと考え、業務にあたっています。

地味でも多くの人々の生活を支える制度づくり、その制度を現場に合う形でなじませていく運用、そんな一人二役の職業生活を送ることができる総務省で、皆さんと一緒に仕事ができるのを楽しみにしています。

活躍の場は全国へ

日本全国で活躍する総務省職員たち

「人間力」を磨く

「課題解決先進県」高知にて

四国南部に位置する人口約73万人の高知県は、全国に先駆けて少子高齢化と人口減少が進み、経済の低迷や中山間地域の衰退等に苦しんできた「課題先進県」でした。この状況を何とか打破し、「課題『解決』先進県」を目指そうと、高知県庁では、平成19年に就任した尾崎知事の強いリーダーシップの下、産業振興を中心に全国的に見ても先進的な政策を次々と実行しています。そんな活気ある高知県庁に赴任した私は、財政、人口問題、産業振興といった県政の主要分野で重責を担わせていただき、緊張感を持ちながらも充実した日々を送っています。

赴任後2年間は、財政課長として約4,500億円の県予算を預かる立場にありました。予算編成時には、各分野の部局長と事業の効果や手法等について徹底的に議論し、また、知事には予算の全体像や100を超える主要事業を自らの言葉でご説明し、ご判断を仰ぐなど予想以上の重責でしたが、2年間の経験が、事業の背景を読み解く想像力、思いを共有した上での調整力、限られた時間の中での判断力などを磨いてくれました。

また、昨年4月からは、産業振興推進部の副部長として、人口の将来ビジョンや産業振興計画など県の重要計画の策定を担当しています。計画の策定作業を通じ、市町村役場や地域の皆さんと直接対話する中で、人口減少に苦しむ各地域の切実な状況を改めて思い知る一方、地域活性化に向けた熱い思いや新たな取組に触れ、国に戻った際には、こうした取組をしっかりと応援していきたいとの思いが日々強くなっています。

地方赴任を通して磨かれる「人間力」

今から13年前、総務省の門を叩いたのは、国と地方の双方の立場での勤務を重ねることで、机上の空論ではない現場の実態に即した制度を企画、立案できるという魅力に加え、総務省の諸先輩方の「人間力」に惹かれたからでした。

人の思いに寄り添い、共感する力。多様な意見を尊重しつつ、柔軟に解決策を模索していく力。総合的な視点から物事を判断していく力。こうしたいわば「人間力」は、変化が速く社会問題も複雑化する時代にあって、国民に真に必要な制度を企画、立案していくために国家公務員として必要不可欠な力です。高知県も含めた3度の地方赴任の経験が自分の「人間力」を確実に磨いてくれていると実感しています。

日本や地域を元気にしたい、そして自身の「人間力」も磨きたい。そんな志の高い皆さんと一緒に仕事ができるのを楽しみにしています。



高知県 産業振興推進部 副部長(人口問題・総合戦略担当)
兼 産学官民連携センター 参事

山本 周

Shu Yamamoto

平成15年 4月 総務省採用
同 自治行政局市町村課
平成15年 8月 佐賀県総務部市町村課
平成17年 4月 総務省自治行政局選挙部政治資金課
平成19年 4月 同 自治財政局財政課
平成21年 8月 札幌市市長政策室政策企画部企画課長
平成23年 7月 国家公務員制度改革推進本部事務局参事官補佐
平成25年 4月 高知県総務部財政課長
平成26年 4月 同 総務部参事(税財政制度担当)兼 財政課長
平成27年 4月 現職

長野県 飯綱町 副町長

小澤 勇人

Hayato Ozawa

平成20年 4月 総務省採用
同 自治行政局公務員部公務員課
平成20年 8月 徳島県企画総務部財政課
平成22年 4月 総務省行政管理局管理官付(金融・財務)
平成22年 7月 同 行政管理局企画調整課
平成23年 1月 同 行政管理局管理官付(厚生労働、年金業務監視委員会)
平成23年 8月 同 行政管理局主査(厚生労働、年金業務監視委員会)
平成24年 7月 同 情報通信国際戦略局通信規格課地域標準係長
平成26年 7月 内閣官房行政改革推進本部事務局
平成27年 4月 総務省行政管理局副管理官
平成27年 7月 長野県飯綱町参与
平成28年 1月 現職



地域に住む一人ひとりの幸せを願って

私は今、地方創生人材支援制度の下、長野県北部に位置する飯綱町という人口1万人程の町で副町長として仕事をしております。国や県と比べて、町の仕事は地域住民にとってより身近なものであり、ほぼ毎日役場を飛び出して多くの町民と現場で話をします。これまで町の声を反映させた様々な施策を立案し実行してきましたが、それらの施策の多くが新聞等のメディアで取り上げられ、町民の方々からすぐに直接反応をいただけるので、とてもやりがいを感じています(好意的な反応が多いので、なおさらやりがいを感じます)。

業務は、特定の分野に限るものではなく、町の行政分野全般に対して町民に直接責任を負っているため、コミュニケーション能力などの基本的なスキルはもちろんのこと、分野横断的な総合力が問われる仕事です。

ICT等の技術革新が加速的に進み、周辺諸国が経済成長する中、日本はこれまで世界が経験したことのない急激な人口減少社会を迎えます。このため、国民一人ひとりの価値観はますます多様化し、これまでの常識や固定観念に捉われていては国が進むべき方向を見誤る危険性が高まっています。また、国で画一的に施策を実行することが適切でない例が増えていることが予想されます。このため、書籍やネット等を通じて机上で学ぶことも重要ですが、積極的に現場に出て、国民一人ひとりの多様な声を直接聞くことの重要性がより増えています。

考えてみると当たり前なことですが、町に限らず国・県を含むあらゆる行政は、最終的には地域に住む一人ひとりの幸せを願って行うものであり、現場の第一線で勤務させていただいている現在の経験は、今後国の様々な施策の立案に携わる身として、とても貴重かつ重要なものであると感じています。

町には本当に様々な人がいます。95歳になっても元気な方、老々介護に悩む方、自身が栽培する作物に強いこだわりを持つ農家、海外進出を狙う経営者、年に一度のお祭りに情熱を捧げる若者、子育てをしながら新築の家の完成を待ちわびている夫婦……。そうしたあらゆる人たちの幸せを願って、日々悩みながら仕事をしていますが、とても楽しくやりがいのある毎日を過ごしています。

総務省に来て、こうしたことを一緒に考え、国の未来を築いていきたいと思います。意欲ある多くの方と総務省でお会いできるのを楽しみにしています。